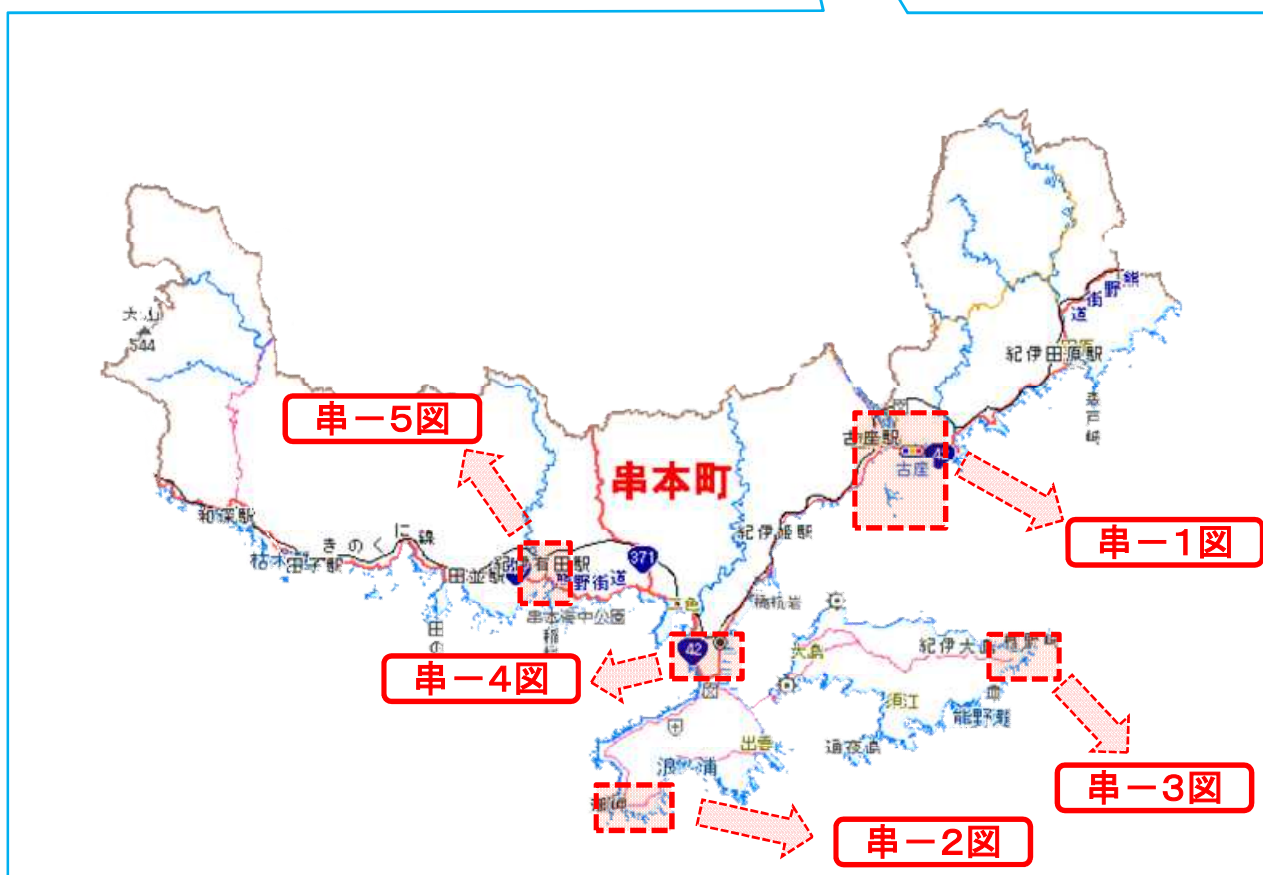


① 申請者	◎和歌山県(新宮市・那智勝浦町・太地町・串本町)	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E				
③ タイトル							
「鯨とともに生きる」							
④ ストーリーの概要(200字程度)							
<p>鯨は、日本人にとって信仰の対象となる特別な存在であった。人々は、大海原を悠然と泳ぐ巨体を畏れたものの、時折浜辺に打ち上げられた鯨を食料や道具の素材などに利用していたが、やがて生活を安定させるため、捕鯨に乗り出した。</p>							
<p>熊野灘沿岸地域では、江戸時代に入り、熊野水軍の流れを汲む人々が捕鯨の技術や流通方法確立し、これ以降、この地域は鯨に感謝しつつ捕鯨とともに生きてきた。当時の捕鯨の面影を残す旧跡が町中や周辺に点在し、鯨にまつわる祭りや伝統芸能、食文化が今も受け継がれている。</p>							
							
紀州太地浦鯨大漁之図・鯨全体之図							
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>古式捕鯨高塚連絡所跡</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>河内祭の御舟行事</p> </div> </div>							
⑤ 担当者連絡先							
担当者氏名	和歌山県商工観光労働部観光局観光振興課 高 橋 恭						
電 話	(073) 441-2777	FAX	(073) 432-8313				
E-mail	takahashi_y0018@pref.wakayama.lg.jp						
住 所	〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通一丁目1番地						

市町村の位置図



7 古座組鯨方石宝

1 河内祭の御舟行事

2 九龍島

構成文化財の位置図(串本町・その2)

串-2図



構成文化財の位置図(串本町・その3)

串-3図



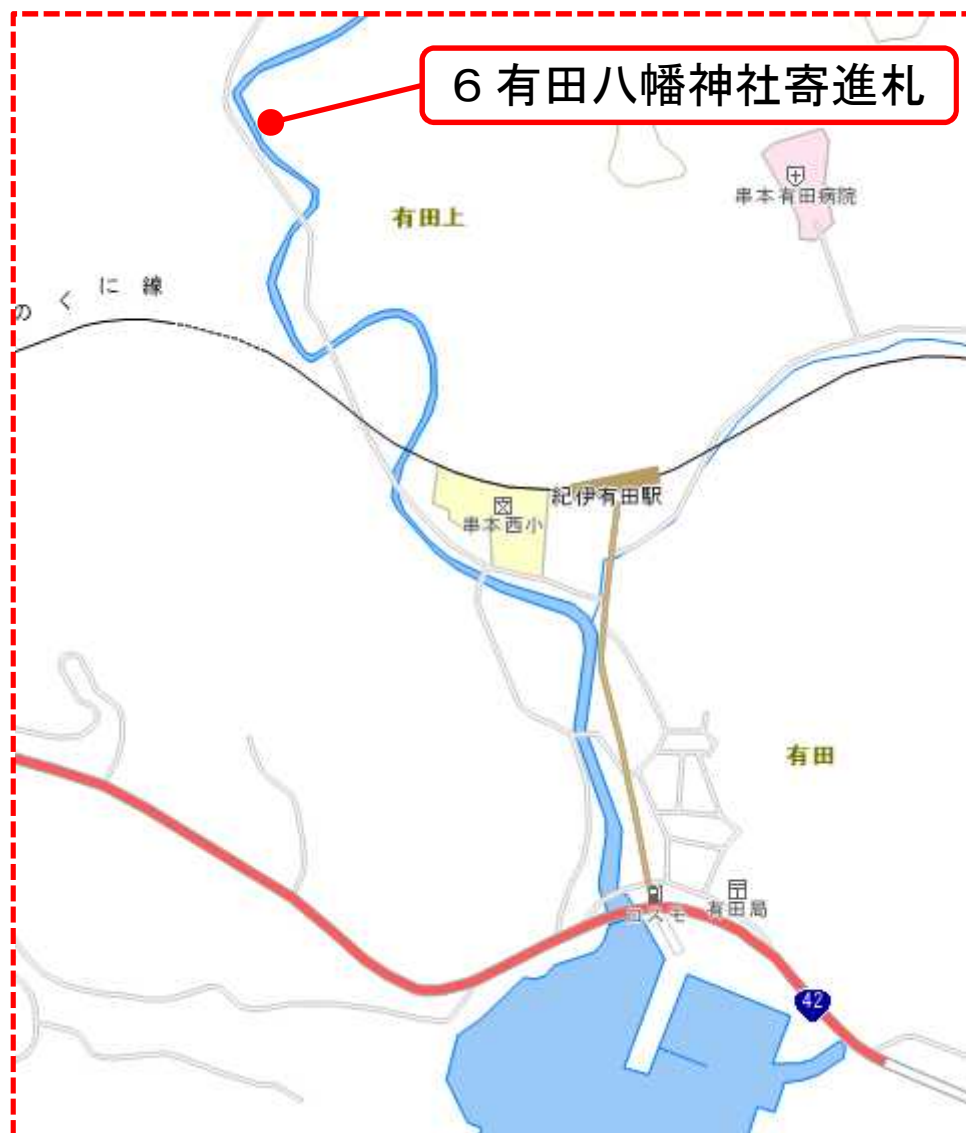
構成文化財の位置図(串本町・その4)

串-4図



構成文化財の位置図(串本町・その5)

串-5図



市町村の位置図

(別紙様式1-2)

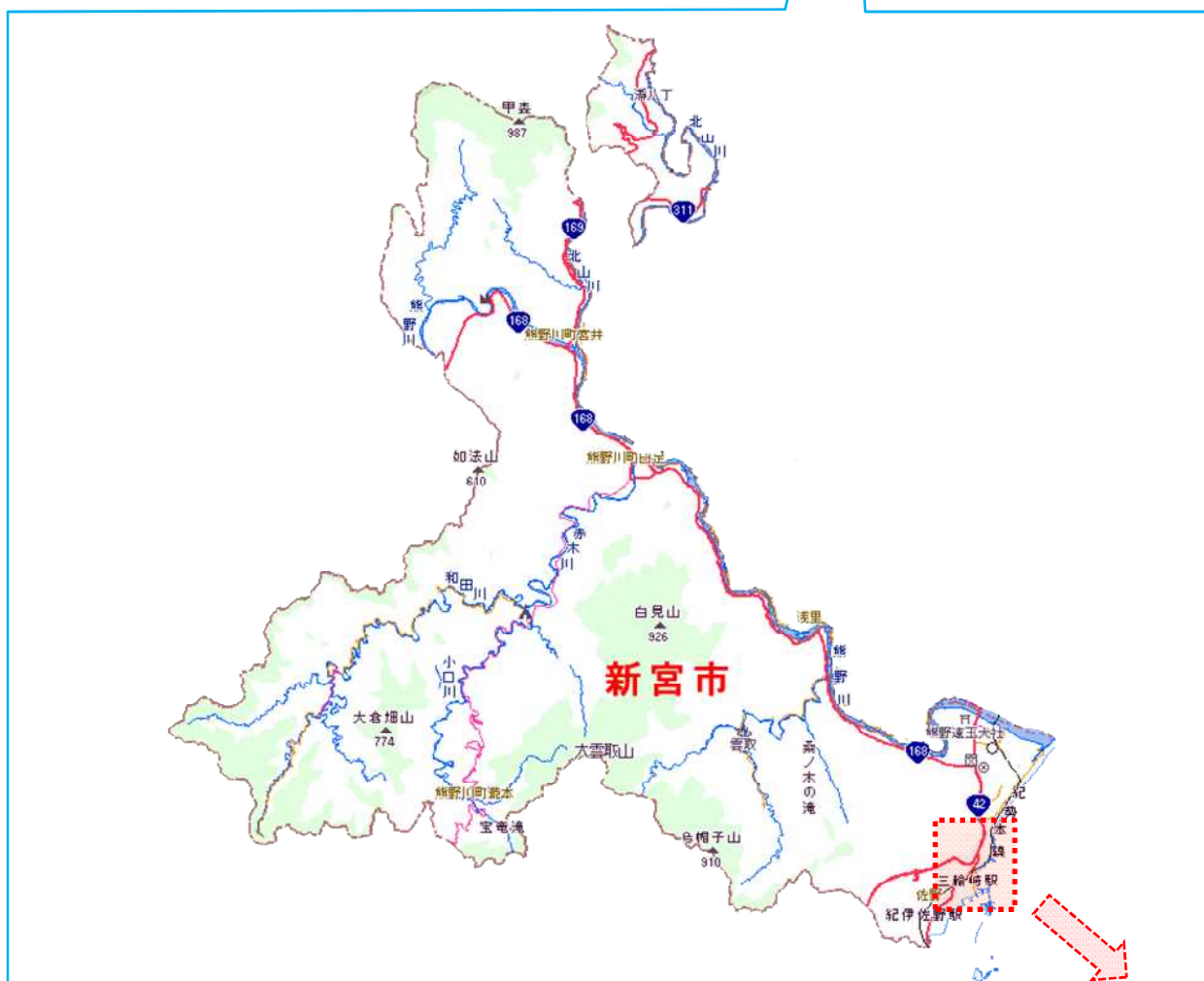


構成文化財の位置図(太地町)



市町村の位置図

(別紙様式1-2)

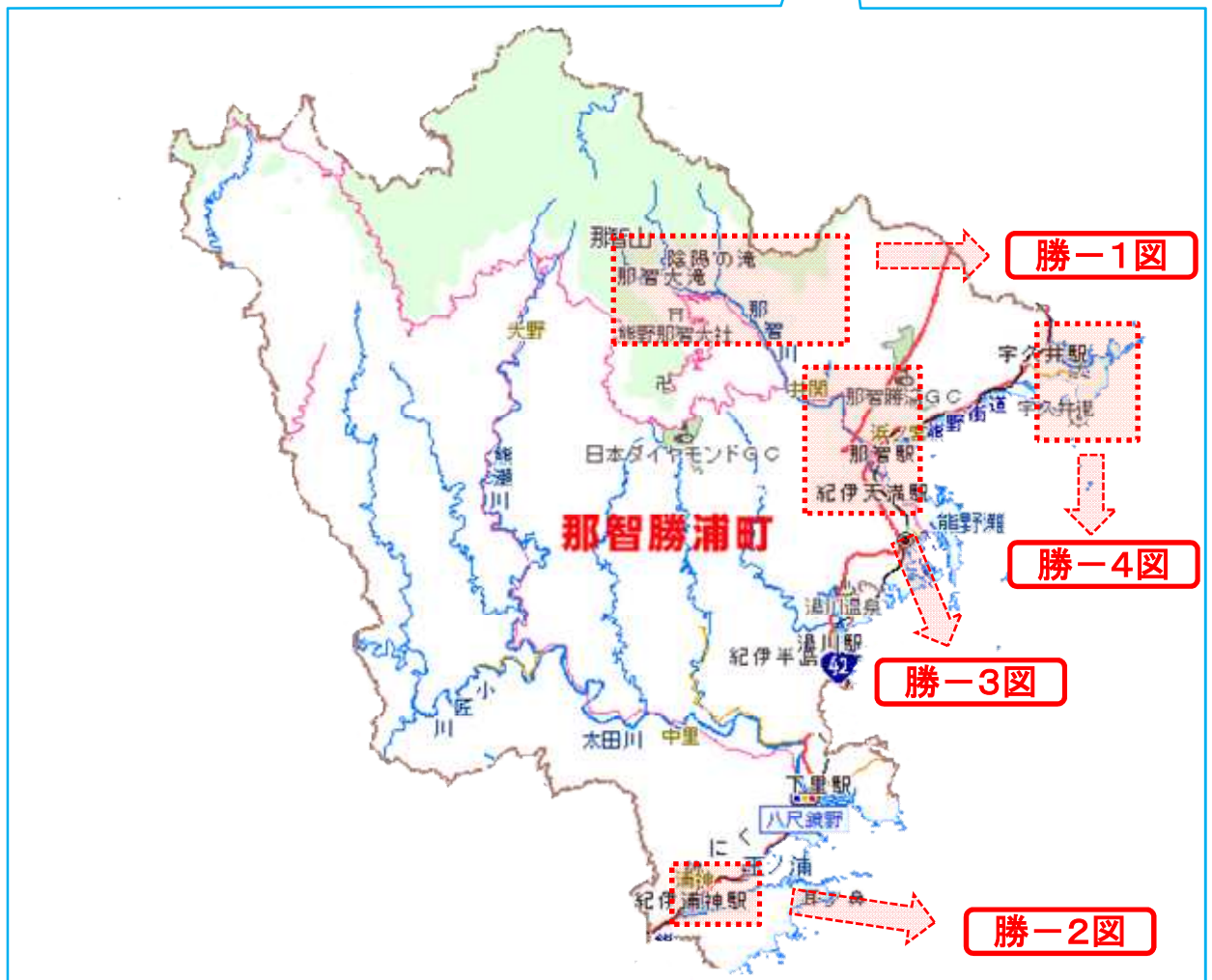


構成文化財の位置図(新宮市)



市町村の位置図

(別紙様式1-2)



構成文化財の位置図(那智勝浦町・その1)

勝-1図



勝-2図



構成文化財の位置図(那智勝浦町・その2)

勝-3図



構成文化財の位置図(那智勝浦町・その3)

勝一4図



ストーリー

「鯨とともに生きる」

鯨は、古来より、日本人にとって富をもたらす神“えびす”であった。浜辺に打ち寄せられた鯨の肉を食し、皮や骨、ひげで生活用品を作るなど、全てを余すことなく利用してきた人々は、この“海からの贈り物”に感謝し崇めながらも、やがて自ら捕獲する道を歩み始める。

熊野灘沿岸地域では、江戸時代初期に組織的な古式捕鯨（網で鯨の動きを止め、鉈を打つ漁法）が始まり、地域を支える一大産業に発展した。現在も捕鯨は続けられ、食・祭り・伝統芸能などが伝承され「鯨とともに生きる」捕鯨文化が息づいている。

《古式捕鯨の歴史》

熊野灘沿岸は、背後に急峻な熊野の山々を擁し、橋杭岩（はしくいいわ）などの岩礁が目立つリアス式海岸が続いている。その海岸近くを、黒潮が最大4ノットの速さで南方から北へ向けて流れ、多くの海の幸をもたらしている。



紀州熊野浦捕鯨図屏風

この地域は、鯨が陸の近くを頻繁に回遊すること、またその鯨をいち早く発見することのできる高台、捕った鯨を引き揚げることのできる浜という、古式捕鯨にとって最も重要な地理的要件を備えていた。

そして、人々は古くより生きる糧を海に求めたため、造船や操船に秀で、泳ぎに長けており、海に関する知識が豊富であった。これは、この地域の人々が、古くに熊野水軍として名を馳せ、源平の戦いでは海上戦の勝敗を左右する活躍をしたことなどからもわかる。

江戸時代、この能力を活かし、新たな産業として着手したのが捕鯨である。最大の生物である鯨を捕獲するには、船団を組み、深さ約45mから60mにも及ぶ網で鯨を取り囲み、鉈で仕留めるとい、他に類を見ない大がかりな漁法が必要であった。命の危険を伴うこの漁は、勇敢さと統一ある行動が求められた。この意味で捕鯨は、水軍で培われた知識と技術が、そのまま有効に活用できる漁であり、その壮大さは「紀州熊野浦捕鯨図屏風」などに生き生きと描かれている。



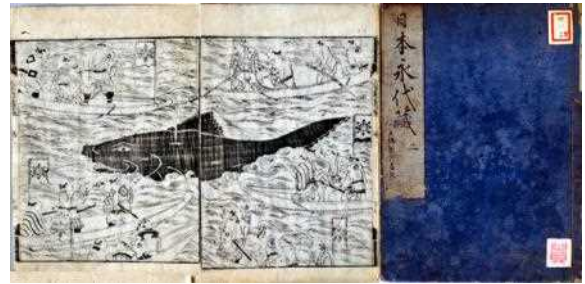
紀州太地浦鯨大漁之図

漁においては、500名を超える人々が役割を分担し、地域を挙げて捕鯨に従事していた。その役割は、鯨を見張り到来を知らせるほか不足資材や漁の状況等の情報の伝達をする者（山見（やまみ））、鯨に網を掛ける者（網舟（あみぶね））、鉈を打つ者（羽差（はざし））、仕留めた鯨を運搬する者（持双舟（もつそうぶね））、操業中各舟で不足した資材・食料を運搬する者（納屋舟（なやぶね））、また資材の管理や修繕を行う者（大納屋（おおなや））など多岐に渡っていた。

解体・加工は、「鯨始末（しまつ）係」が担った。鯨始末係は、鯨を引き上げるために轆轤（ろくろ）を回す“頭仲間（かばちなかま）”、解体をする“魚切（うおきり）”、骨や皮などを釜煎りし鯨油を採取する“採油係”などに細分化され、総勢80余名で構成された。彼らは、肉の大半を塩漬けにして樽詰で出荷し、ヒゲや筋は

道具の素材とし、採油後の骨や血液の粉、胃の中の食物等は肥料とするなど、持てる知識と技術を発揮し、巨体の全てを活用した。

鯨は、“一頭で七郷が潤う”と言われ、当時セミクジラ1頭で約120両にもなり、年間95頭捕れた天和元年(1681年)には、6,000両を超す莫大な利益をもたらした。このことは、遠く離れた大阪にも伝わり、井原西鶴の著書「日本永代蔵」には、鯨を取って得られる金銀が、使っても減らないほど蓄えられ、檜造りの長屋に200人を超す漁師が住み、船が80隻



日本永代蔵 巻二

もあり、鯨の骨で造られた三丈ほどの「鯨鳥居」があるなど、この地域の繁栄ぶりが記述されている。

捕鯨が発展を遂げた背景には、捕鯨という一次産業にとどまらず、解体や加工、鯨舟を造る船大工、銚や剣を作る鍛冶屋、浮き樽を作る桶屋、販売・経営を司る支配所など、二次・三次にも及ぶ広い業種が関わり、地域全体が利益を享受できるシステムを構築していたことが挙げられる。

《捕鯨が育んだ文化》

この地域には、多くの鯨にまつわる祭りや伝統芸能が今も受け継がれている。飛鳥神社の「お弓祭り」や塩竈(しおがま)神社の「せみ祭り」では、的に取り付けられた「せみ」(セミクジラを模した木や藁で作られたもの)という縁起物を用い、豊漁や航海の安全を祈願している。「河内祭(こうちまつり)」のハイライトは、豪華に飾り立てた鯨舟(とぎふね)の渡御であり、かつて捕鯨がこの地域の生活を担う誇るべき産業であったことを物語っている。



塩竈神社のせみ祭り



三輪崎の鯨踊

また、鯨踊は、かつて大漁を祝う鯨唄の調べとともに、勢子舟(せこぶね)に渡した板の上に座したまま、あるいは浜で舞っていたものだが、この踊りにおける一糸乱れぬ動きは、鯨との死闘を見るようである。新宮市や太地町では、多くの小学生が、学習の一環としてこの踊りを習い、次の担い手となって継承しており、今では神事の際や祭りで披露し、郷土芸能として浸透している。



河内祭の御舟

平素の生活においても、今も続く捕鯨により得られた肉は、郷土の味として定着している。

熊野灘沿岸の各地には、古式捕鯨時代の山見台跡や狼煙(のろし)跡、総指揮を行う支度部屋(したくべや)跡などが残り、当時の勇壮な漁の様子を想像できる。

また、太地漁港周辺に残る集落全体を取り囲む石垣の一部や、集落の入り口に当たる場所にあった“和田の岩門(せきもん)”などは、かつて地域が一つの共同体として捕鯨に取り組んでいた面影を今に残しており、江戸時代以降、この地域の産業と文化の根幹であった古式捕鯨の名残を今も伝えている。



灯明崎山見台跡

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	河内祭の御舟行事 <small>こうちまつり みらね</small>	国重要無形 民俗	祭りのハイライト舟渡御 <small>(ふなとぎよ)</small> に登場する装飾された鯨船が、かつて捕鯨が地域の生活を担う誇るべき産業であったことを今に伝えている。	串本町
2	九龍島 <small>くろしほ</small>	国名勝	熊野灘沿岸の人々が、捕鯨につながる熊野水軍として活躍した時代に拠点のあった島であり、捕鯨が育んだ文化の一つ「河内祭り御舟行事」の舞台となる古座川 <small>(こざがわ)</small> 河口に位置し、祭りにとって聖なる場所とされる。	串本町
3	潮岬の鯨山見 <small>しおのみさき くじらやまみ</small>	未指定	古式捕鯨にとって最も重要な施設である山見台があった跡であり、かつて、古座鯨方 <small>(こざくじらがた)</small> の拠点であった。岬の突端に位置し、熊野灘を沖合まで広角に見渡せる。	串本町
4	檜野崎の鯨山見 <small>かしのざき</small>	未指定	古式捕鯨にとって最も重要な施設である山見台があった場所であり、かつての古座鯨方山見跡の名残を留めている。岬の突端に位置し、熊野灘を沖合まで広角に見渡せる。	串本町
5	串本町史編纂資料	未指定	<p>(鯨文書) 古座鯨方に関する目録や日記などの文書類である。</p> <p>(鯨絵巻) 鯨、勢子船、道具など古式捕鯨にかかわるものを描いた絵巻物である。絵は彩色を施している。</p> <p>(喜多野又兵衛板書) 紀州藩から派遣された役員である喜多野又兵衛が不漁時に尽力したことの功績が記され、古座組鯨方石宝に納められていた3枚の板書である。</p> <p>これらの資料は、古式捕鯨の様子や組織の状況などを今に伝えている。</p>	串本町
6	有田八幡神社寄進札	未指定	有田八幡神社の遷宮時における寄進札である。鯨組と羽指の名前が見え、17世紀中頃の鯨方の様子を今に伝えている。	串本町

7	古座組鯨方石宝	未指定	古座組鯨方の信仰の対象であった石製の祠である。喜多野又兵衛板書が納められていた。往時における鯨方の信仰を物語っている。	串本町
8	捕鯨の祖 和田頼元 墓 <small>そ わ た より も と の ほ か</small>	県史跡	熊野灘地域において組織的捕鯨（古式捕鯨）を始めた和田頼元の存在が墓石から確認できる。	太地町
9	太地のくじら踊 <small>たい じ おど り</small>	県無形民俗	捕鯨が育んだ文化として、かつての古式捕鯨における行事を今に伝える。もとは「デーカイタ」と呼び継承されてきた。踊手（おどりて）、唄手（うたいて）、太鼓打ちに分かれ、踊りは、綾棒（あやぼう）を銚（もり）に見立てて打ち振る「綾踊り」と、素手のまま太鼓のリズムにのせて鯨をつかみ取る「魚（さかな）踊り」の豪快な 2 曲からなり、いずれも座踊（ざおどり）である。2 隻の船の間に板を渡して踊る「船がかり」と、座敷に 2 段の舞台を組み踊る「座敷がかり」がある。	太地町
10	飛鳥神社 <small>あす か</small>	町指定 (建造物)	当神社で行われる「お弓祭り」（例祭）では、的に取り付けられた鯨に似せた「せみ」を奪い合うなど、捕鯨にまつわる伝統行事が今も受け継がれている。	太地町
11	鯨 供養碑 <small>くじら</small>	町史跡	古式捕鯨時代に建立された現存する唯一の供養碑として、かつて人々が鯨に寄せた思いをしのぶことができる。	太地町
12	古式捕鯨 支度部屋跡 <small>し た く べ や あ と</small>	町史跡	古式捕鯨が始まった頃に設けられた施設の跡で、明治以降に撤収されたが、古式捕鯨の名残を伝える。	太地町
13	古式捕鯨 狼煙場跡 <small>の ろ し は あ と</small>	町史跡	当時、沖の船団に連絡をする唯一の手段であった狼煙場の様子を今に伝える。	太地町
14	燈明崎 燈明台跡 <small>とう み ょ う ざ き と う み ょ う だ い あ と</small>	未指定	かつて新宮藩から派遣された役人が常駐し、鯨油を利用した燈明台が設けられていた。現在、絵図等を参考に灯明台が建てられている。	太地町
15	燈明崎 山見台跡 <small>とう み ょ う ざ き や ま み だ い あ と</small>	未指定	古式捕鯨にとって最も重要な施設である山見台があった跡であり、現在、古式捕鯨図を参考に山見台が復元されている。	太地町

1 6	古式捕鯨 <small>たかつかれんらくしよあと</small> 高塚連絡所跡	町史跡	遠く離れた山見相互の連絡をするため、中継所としての役割を果たした。連絡所の位置は、実に綿密に計画され設けられている。	太地町
1 7	<small>わだ せきもん</small> 和田の石門	未指定	門の内側には、古式捕鯨の創始者である和田氏の広大な屋敷があったとされ、この地域一帯が、和田氏を中心とした共同体であったことを物語っている。	太地町
1 8	<small>たいじかくえもん</small> 太地角右衛門の墓	未指定	熊野灘地域における組織的捕鯨（古式捕鯨）に綱取り法を取り入れ、中興の祖となった太地角右衛門の存在が墓石から確認できる。	太地町
1 9	刺し加子墓	未指定	太地氏が加子の千百大 <small>(まさと)</small> のために建立した墓である。太地鯨方 <small>(たいじくじらかた)</small> 内部における関係性を示す資料でもある。	太地町
2 0	梶取崎 狼煙場跡	未指定	当時、沖の船団に連絡をする唯一の手段であった狼煙場の様子を今に伝える。	太地町
2 1	<small>み わ さき くじらおどり</small> 三輪崎の鯨 踊	県無形民俗	捕鯨が育んだ文化として、かつての古式捕鯨における行事を今に伝える。捕鯨とともに始まり、浜で踊った大漁祝いが起源であると伝えられている。鉾に見立てた綾棒を腰に差し、両手に扇子をもち網を投げて鯨を取りまく形を表現する「殿中踊 <small>(でんちゅうおどり)</small> り」と、終始座して綾棒をかかげ、上半身のみで鉾突きを表現する「綾踊り」の2曲がある。	新宮市
2 2	<small>は ざしなかにんりゅう せきし</small> 羽指中 建立の石祠	未指定	側面に「〇〇〇組羽指中」とだけ読み取れる文字があり、この祠の所在する三輪崎地域の鯨方の羽指中が建立したものであると考えられる。	新宮市
2 3	<small>くじらやま み あと</small> 鯨 山見跡	未指定	沖を見るには絶好の場所に、現在石積がなされており、山見台があった跡である。この場所の南北に更に2か所の山見台があった記録があり、かつての三輪崎鯨方山見跡の名残を留めている。	新宮市
2 4	<small>くしま</small> 孔島巖島神社の石造物	未指定	神社境内に、鯨方に関連する石造物が残っている。石灯籠は太地鯨方「角右衛門一類」太地与一頼任が奉納したもの、法華塔は三輪崎鯨方「御組」羽指中 彦太夫、新太夫ら建立したものであり、鯨方の信仰を物語る石造物である。	新宮市

2 5	三輪崎八幡神社の石灯籠	未指定	神社境内に太地与一が奉納した石灯籠が残る。鯨方の信仰を物語る石造物である。	新宮市
2 6	せいがん と し ぎょれい 青岸渡寺の魚霊供養碑	未指定	鯨をはじめとした様々な魚の命をいただくことに対する感謝の表れとして、供養をするという精神文化が、今なお引き継がれている。	那智勝浦町
2 7	しおがま 塩竈神社のせみ祭り	未指定	鯨にまつわる祭りとして当神社で行われる「せみ祭り」（例祭）では、的に取り付けた鯨に似せた「せみ」を、「せみ子」と呼ばれる白装束の子供が引き抜き走るといふ、捕鯨にまつわる伝統行事が今も受け継がれている。	那智勝浦町
2 8	浜の宮のお弓祭り	未指定	熊野三所大神社の例祭であり、神事の中で、的に取り付けられた鯨に似せた「背美（せみ）」を奪い合う、あるいは的の端を持ち帰るなど、捕鯨にまつわる伝統行事として、今も受け継がれている。	那智勝浦町
2 9	宇久井半島の山見台跡群	未指定	古式捕鯨にとって最も重要な施設である山見台跡があった跡であり、かつて、三輪崎鯨方（みわさきくじらがた）の拠点であった。	那智勝浦町

(※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文、県有形、市無形、等）。

(※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧

(串本町)

1 河内祭りの御船行事



4 檜野崎の鯨山見



2 九龍島



5 串本町史編纂資料

(鯨文書)



(鯨絵巻)



(喜多野又兵衛板書)



3 潮岬の鯨山見



6 有田八幡神社寄進札



7 古座組鯨方石宝



(太地町)

8 捕鯨の祖 和田頼元墓



11 鯨供養碑



9 太地のくじら踊



12 古式捕鯨 支度部屋跡



10 飛鳥神社



13 古式捕鯨 狼煙場跡



14 燈明崎 燈明台跡



17 和田の石門



15 燈明崎 山見台跡



18 太地角右衛門の墓



16 古式捕鯨 高塚連絡所跡



19 刺し加子墓



20 梶取崎 狼煙場跡



(新宮市)

21 三輪崎の鯨踊



22 羽指中建立の石祠



23 鯨山見台跡



24 孔島厳島神社の石造物



25 三輪崎八幡神社の石灯籠



(那智勝浦町)

26 青岸渡寺の魚霊供養碑



28 浜の宮のお弓祭り



27 塩竈神社のせみ祭り



29 宇久井半島の山見台跡群

